１２月の普及活動状況

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜県農政部農業経営課

＝目　　次＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

＜１２月普及活動状況ダイジェスト版＞

新たな産地づくりの推進　～活力ある新産地づくり～

岐阜農林　■アスパラガス　オープンハウス　展示ほ場完成

【アスパラガスのオープンハウス】

本事業を活用して､省エネとコスト削減を狙って普及を進めている、オープンハウスの展示実証ハウスが完成した。

２月に苗を定植して、株養成に入る計画で着々と展示実証の準備を進めている。現在もこのハウスを活用して、構造についての現地研修会、視察対応を行っている。

西濃農林　■ブロッコリー　量販店バイヤーの収穫体験実施

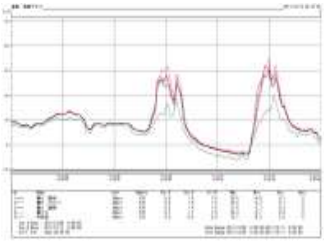
12 月 16 日に平和堂のバイヤーを中心に約 20 名が、大垣市青墓でブロッコリーの収穫、調整作業を体験した。体験の前に、農業普及課からは産地の概要や、ぎふクリーン農業への取り組み、品種特性について説明した。参加したバイヤーから、今回の体験を販売活動に活かしていきたいとの意見が聞かれた。

中濃農林　■さといも　円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会発足!!

【円空さといも料理を試食】

12 月 16 日に、円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会が発足し、第１回推進委員会を開催した。推進委員会は、ＪＡめぐみの、関市、美濃市、農林事務所、関商工会議所、中濃里芋生産組合で構成され、円空さといもの振興を図っていく。農業普及課では、これまでに円空さといも生産振興会議等を通じて、推進委員会発足に向けて支援を行ってきた。

可茂農林　■青ねぎ　青ねぎのトンネル被覆試験



坂祝町青ねぎ生産部会では、冬期の青ねぎの生育促進を目的としてトンネル栽培をおこなっている。農業普及課では「活力ある新産地づくり支援事業」により効果の高い被覆資材を検討するため比較試験を実施している。４種類の被覆資材を用いて、１１月下旬から被覆を開始しており、トンネル内の温度変化を調査・比較することで、今後の技術指導に活かしていく予定である。

東濃農林　■ブロッコリー　出荷がいよいよ終盤！

【収穫待ちのﾌﾞﾛｯｺﾘｰ】

ブロッコリーは、12 月上旬に出荷ピークを迎え、終盤を迎えている。今年度産については、野菜づくり塾等で新規栽培者 30 名程度を確保することができ、初回としては大変良質なブロッコリーの生産販売につなげることに成功した。来年度以降は、長期・安定出荷に向け、品種や作型をさらに検討していくこととしている。

恵那農林　■くり　ぽろたん栗のスイーツ初販売！～地元菓子業界と新たな農商工連携を模索～

【タルト（左）と赤飯饅頭
マドレーヌ（右）】

管内ぽろたん栽培農家及び関係機関で構成する「東美濃ぽろたん研究会（事務局：農業普及課）」は、地元中津川・恵那の両菓子組合へ新品種「ぽろたん」の加工検討を依頼した。

中津川菓子組合からは、ぽろたんたっぷりのタルトなどを創作いただいた。一方、恵那菓子組合からは、12月4日開催の恵那まちなか市に合わせ、お披露目スイーツとしてぽろたん丸ごと１個を使った赤飯饅頭やマドレーヌを販売して頂いた。協力店舗からは、「渋皮を剥く手間がかからないことはすごく魅力的」、「オンリーワン商品として活かせる」など太鼓判を押す声が聞かれた。

当産地のぽろたんは、当面、出荷量が毎年倍増していく見込みで（来年秋500kg、再来年秋1t）、研究会では加工業務用向け原料販売も視野に新たな用途・販路を模索中である。

下呂農林　■龍の瞳　支部生産組合会議開催される

【下呂・加子母支部研修会】

龍の瞳生産組合は県内に 18 支部あり、各生産組合で精力的に活動が行われている。その中で、12 月 12 日には下呂・加子母支部で総会及び研修会が開催された。

23 年産は、農業普及課によるこれまでの分析結果から、千粒重は例年より大きく、ここ数年問題となっている胴割粒も昨年に比べ少ない傾向にあった。

しかし、品質に関する課題は多く、各課題ごとに原因と対策について説明を行った。

課題の１つである胴割粒対策として、本年下呂市の３地区でモデルほ場を設置し、収穫時期別の等級の変化等を調査した結果について説明を行った。

その他（資）龍の瞳からは、24 年産の栽培委託契約書について説明があった。龍の瞳の生産者からは、全国での販売推進に向たＰＲ方法について意見、要望があった。

農業普及課としては、品質低下の要因を分析し、高品質安定生産技術の見直し等を行っていく。

主要農産物の生産振興　～売れる農産物づくりと産地の強化～

揖斐農林■フランネルフラワー　エンジェルスター出荷

フランネルフラワーは、冬を越し春先に出荷する作型が中心であるが、冬期の需要も高い。そこで、農業普及課では、四季咲き性であり、冬～春の長期出荷が見込まれる県育成品種「エンジェルスター」の調査ほを設置し、調査を行っている。

調査ほは、農業技術センターと連携しながら進めている。８月、９月に定植した株では、出荷可能な花が１１月から伸び始め、市場からの注文に応じて１２月中旬に出荷することが出来た。今後も、随時注文に応じて出荷を実施する予定である。

飛騨農林■トマト　全体研修会開催！

【全体研修会（高山市）】

12 月 1 日、ＪＡひだ本店で飛騨蔬菜出荷組合トマト部会主催による「飛騨トマト全体研修会」が開催され、約 200 名のトマト生産者等が出席した。

今年は「単収１ｔ増加」をスローガンとして取り組んだ結果、昨年比＋0.9ｔ(6.8→7.7ｔ、11 月 10 日現在)で、ほぼ目標達成することできた。しかし、出荷が前半に偏り、後半(10 月)の出荷量が激減したことが課題となった。

そこで、農業普及課からは「後半までしっかり穫れる飛騨トマトを目指して」と題し、土壌水分確保(通路潅水・潅水優良事例)、摘果励行、裂果抑制、土壌還元・消毒の推進などについて報告し、後半の高単価が期待できる時期にも安定して出荷できる対策を促した。また、新品種(タキイ No15、サカタ 412)について、現場の生育データやアンケート結果に基づいた栽培特性の説明も行った。

研修会では、各単組で生産者自身が取り組んでいる「ローカルプロジェクト」の発表や福島県のトマト名人である宇川氏の講演もあり、後半の値段が高い時に、いかに出すかについての具体的な話に、生産者は熱心に聞き入っていた。

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

■オープンハウス　展示ほ場完成

（活力ある新産地づくり支援事業：アスパラガス）

本事業を活用して、省エネとコスト削減を狙って普及を進めている、オープンハウスの展示実証ハウスが完成した。

２月に苗を定植して、株養成に入る計画で着々と展示実証の準備を進めている。現在もこのハウスを活用して、構造についての現地研修会、視察対応を行っている。

【アスパラガスのオープンハウス】

■果宝柿選果支援

糸貫選果場では袋掛け富有柿（おふくろ柿）が12月8日～16日まで出荷された。その中から重さ350ｇ以上、果色カラーチャート７以上、糖度18度以上でキズ等が無く、ブルームがしっかり付着している果実を「果宝柿」として選果し、東京・名古屋の果実専門店等で５Ｌ5,000円（２個入り）、４Ｌ6,000円（３個入り）で販売された。農業普及課では選果支援を行い、管内で143個、県内では総計304個の出荷となった。

【「果宝柿」の選果支援】

主要農作物の生産振興

■水稲

営農指導員に対する土づくりの啓発

１２月７日にＪＡぎふは、各支店の営農指導員に対して次年度水稲栽培暦の説明会を開催した。農業普及課からは、今年の水稲の生育状況及び次年度に向けての栽培ポイントについて情報提供した。土づくりが近年実施されない傾向にあることから、特に土づくりの推進について啓発した。

■アスパラガス

第３回ＪＡぎふアスパラ塾

ＪＡぎふは、１２月１４日に羽島市のＪＡぎふ正木支店で「第３回ＪＡぎふアスパラ塾」を開催した。農業普及課では、アスパラガス栽培の基本技術となる株養成から茎葉刈り取りまでの一連作業内容の習得やオープンハウス仕組み等について講師を務めた。塾生は、３回の受講を通じて具体的な栽培管理への理解が深まっており、アスパラガスの導入に向けて準備を進めている塾生も現れている。面積拡大に期待が持てる塾となった。

【　アスパラ塾での講習会指導】

■だいこん

祝大根

12 月 21 日から 28 日まで２２万束（前年比 95%）の出荷見込み。農業普及課では出荷予測情報を提供した。本年は暖冬で肥大が進んでいる状況である。ＪＡ作業受託も併せて始まる。

守口大根

岐阜地域では、守口大根のオリジナル品種の育成を目指している。12 月 17 日に育成中である「Ｆ１、茜守口」の収量調査を実施した。その結果、バラツキはまだあるように思われる。（国の品種登録申請は未認可）　産地からは、次年度も育種の継続対応して欲しいという要望がある。

守口大根の現況としては、11 月 29 日から 1 月中旬まで出荷予定（契約数量 123t（104%）年内出荷分は播種が遅れたため、歩留まりがやや低い人があるが、年明け出荷分の生育は

順調に推移している。

■にんじん

冬にんじん出荷ピークすぎる

冬にんじんを現在出荷中。今年の生産規模は 64 戸、23.1ha。先週で 70 千ケースを超えた。全体目標は 80 千ケース。11 月出荷分は 44 千ケース（H22 は 66 千ケース）、8 月 23 日の大雨の影響は小さくなく、生産量・品質が低下した。

＜参考：平成 22 年冬にんじん 68 戸、28.9ha、966t、125,271 千円＞

■かき

柿出荷終了！

管内の柿選果場では袋柿の出荷のあった糸貫選果場の 12 月 16 日を最後に、かきの出荷が終了した。富有柿の出荷量は、前年比 150%前後（岐阜市 204%、糸貫 176%、真正 111%、瑞穂市 142%、北方 129%、羽島 73%）となり、単価は、前年比 80%程度の結果となった。

次年度に向け、間伐・せん定指導を開始！

次年度の柿生産に向けて、間伐・せん定講習会が 12 月 10 日の㊙柿振興会真正地区を皮切りに柿の各振興会で始まった。岐阜市かき共販振興会では 16 日から 21 日、瑞穂市、糸貫地区では 17 日、北方では 20 日と行われた。農業普及課では、各産地とも間伐の重要性を説明し、実技を交えて指導した。

さらに、各地区独自の研究会、学習会、グループ等の研修会が予定されており、次年度の高品質な柿の生産に向けての取り組みが行われる。また、産地維持のためシルバー人材センターの利用も増え始めており、本巣市では毎年、瑞穂市でも今年度から講習会が開催される。

【写真　剪定講習会指導】

■いちご

飛騨美濃特産名人に北川氏が認定！

「飛騨美濃特産名人」に岐阜市園芸特産振興会いちご部会の北川部会長が認定され、12 月13日に授与式が県庁で行われた。北川氏は、長年、指導農業士など地域のリーダーとして新規就農者の支援に積極的に取り組み、若手の農家の育成に尽力された。また、いちごを生食だけでなく、加工品利用を進めるため商工連携にも力を注がれた。これからも地域のリーダーとして活躍が期待されている。

担い手の育成・確保

■営農組合

各務原市の２営農組合が、今年度から加工用キャベツ栽培に取り組んだ。蘇原地区で約２０ａ、各務地区で３６ａ栽培が行われた。農業普及課では、病害虫発生状況の把握及び、防除指導を行った。

収穫作業が 11 月 29 日から 12 月 19 日まで間で延べ６日間収穫作業を行われた。目標収量（６ｔ/10ａ）を目指していたが、小玉果、虫害等により各ほ場では５～６ｔとなった。

【写真　キャベツの収穫状況】

■うすずみファーム（ユニオン）

ブロッコリーの出荷開始

11 月末よりブロッコリーの出荷を開始した。農業普及課では 12 月 7 日に経営改善提案を実施し、12 月 22 日に今年度の反省会を行い、来年作付けの検討を行った。

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

出荷、生育状況

11 月下旬から早生、中生品種の出荷が始まったが、気温の低下により、蕾の肥大が遅くなり、１日あたりの出荷量は減ってきている。一方で、１月に収穫を計画していた中晩生品種の出荷が不破､垂井では 11 月末から始まっており､年明け以降の品不足が懸念される。

量販店バイヤーの収穫体験実施

12 月 16 日に平和堂のバイヤーを中心に約 20 名が、大垣市青墓でブロッコリーの収穫、調整作業を体験した。体験の前に、農業普及課からは産地の概要、ぎふクリーン農業への取組、品種特性について説明した。参加したバイヤーから、今回の体験を販売活動に活かしていきたいとの意見が聞かれた。

■小麦

生育状況

H24 産小麦のは種作業は、イワイノダイチが 10 月 15 日～11 月 10 日、農林６１号が 11 月３日から始まり概ね月末に終了した（一部担い手は 12 月過ぎにもは種している）。

11 月上旬までに播種されたほ場では、出芽は良好で初期生育も順調で、分けつも進んでいる。11 月中旬以降の播種では出芽期の降雨の影響もあり、出芽や初期生育がやや遅れた。

■トマト

出荷の状況

11 月下旬までの実績（３ケ年対比）は数量 104%、単価 111%、金額 115%であった。他産地の出荷前進化に伴う反動や小玉傾向で数量が減少したが、単価は上昇している。

環境制御についての取り組み

海津トマト部会で地区別のほ場巡回研修＋室内研修会が行われた。ほ場研修では試験設置している環境測定装置（照度・CO_2・湿度・温度）の説明が行われ、若手農業者を中心に関心が集まった。まずは、各産者間のデータを収集、比較検討をしていく予定である。

【写真 パソコン画面でハウス内環境をみる生産者】

■きゅうり

きゅうりの出荷状況

抑制栽培が終了し、促成栽培の出荷のみとなっている。12 月上旬までの販売実績は前年比　数量：94%　金額：96%　単価：101%である。半促成栽培の定植は 12 月５日から始まった。定植のピークは 12 月中旬で、12 月 25 日頃まで行われる。

抑制栽培反省会の開催

12 月 16 日に栽培反省会が開催され、きゅうり黄化えそ病に関わる調査結果と対策について説明した。また、ＧＡＰについては、チェックシートに基づき、自己審査、今後の改善点の記入が行われた。

■いちご（海津市、養老町）

出荷開始と目揃会の開催

11 月 18 日より、普通ポットで出荷が始まった。頂果房の出荷ピークは 12 月中旬頃と思われる。これに合わせて 11 月 29 日～12 月 14 日にかけて、各部会で目揃会が開催され、出荷規格の確認が行われた。農業普及課からは、当面の管理について話をした。

栽培状況

濃姫・美濃娘では、12 月中旬頃に２番花の花盛りとなっている株が多く、１－２番間葉数は３～５枚程度となる見込みである。11 月の気温が高く経過したこともあり、収穫期に入っても炭そ病で萎れていく株が見かけられる。また、ハダニ類やコナジラミ類、アブラ

ムシ類なども発生している。厳冬期となり、草勢を維持するため、摘蕾の実施、適切な温度管理や電照時間等を指導している。

■甘長

総会の開催

11/25 海津甘長部会総会が開催された。平成 23 年産は　出荷量 139t(101%)　単価 704 円/kg(100%)であった(前年比)。

栽培農家が高齢化のため減少しており、次年度も減少する見込み。農業普及課では、後継者や新規栽の確保に向けた仲間づくりを呼びかけている。平成 24 年産に向けて 11 月末から播種が始まった。

■加工用キャベツ（養老町）

一部担い手で取り組んでいる露地キャベツは、12 月 22 日（木）にＪＡ、全農岐阜担当者で生育状況、出荷時期、出荷見込み量等を調査し、今後の計画を立てる予定である。なお、現時点で目揃え会は１月上旬頃、出荷開始は１月中旬からとなる見込みである。出荷形態は、コスト削減のため鉄コンテナ（750～800kg 入る。）を利用する。

■なし

鳥獣害対策への取組み

休眠期となり剪定作業が行われている。大垣ナシ生産連絡協議会(事務局:大垣市)では 11 月 25 日に「大垣ナシ(幸水)品評会(８月 19 日実施)」の反省及び鳥獣害対策に関する講演会が行われた。講師（岐阜県農村振興課酒井鳥獣害対策監）からは、鳥害対策のポイントを実体験を交えた講義を受け、追い払いの方法に関心が高かった。

■かき

剪定講習会

12 月 22 日に養老町果樹振興会で剪定講習会を実施した。今年は、台風の影響により炭そ病が多発したため、講習会では、炭そ病対策として、落ち葉、剪定枝の処分、来年の 5 月下旬に殺菌剤散布を基幹防除に加えることなどを指導した。

■フランネルフラワー

秋作終了

鉢花は、秋出荷が終了した。エンジェルスターの開花は続いているが、ポインセチア、シクラメン等の入荷増もあり、価格も弱くなってきたため、ボリュームを出してからの年明けの出荷を実施予定している。また、春出荷に向けては、ほぼ鉢上げが終了しているが、順調な生育である。

切り花は、９月の定植以降、順調に生育中であるが、生育は遅れている。育苗段階で過湿気味になったものは特に生育が遅れており、生育ムラが発生している。

担い手の育成・確保

■４Ｈクラブ

大垣４Ｈクラブの活動

大垣市の芭蕉元禄楽市楽座「まるごとバザール（11 月 19.20 日)」へ出店し、ポインセチア、フランネルフラワーなどを中心に農産物の販売を行い、大垣市農業のＰＲ及び担い手として交流活動を行った。

農業普及課では、関係機関と連携を図り、クラブ員の活動が円滑に実施されるよう支援を行っている。

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

■フランネルフラワー（切り花）

エンジェルスター出荷

フランネルフラワーは、冬を越し春先に出荷する作型が中心であるが、冬期の需要も高い。そこで、農業普及課では、四季咲き性であり、冬～春の長期出荷が見込まれる県育成品種「エンジェルスター」の調査ほを設置し、調査を行っている。

調査ほは、農業技術センターと連携しながら進めている。８月、９月に定植した株では、出荷可能な花が１１月から伸び始め、市場からの注文に応じて１２月中旬に出荷することが出来た。今後も、随時注文に応じて出荷を実施する予定である。

主要農作物の生産振興

■小麦・大麦

生育調査を実施、生育状況は良好

農業普及課では、奨励品種決定現地調査、年次変動追跡調査として、小麦「イワイノダイチ」「きぬあかり」「さとのそら」、大麦「さやかぜ」、「カシマゴール」、「ミノリムギ」の生育調査を実施している。播種が遅れた圃場では生育が遅れているが、概ね生育は順調に推移し、現在、分げつ盛期に入っている。近年麦類の品質が気象の影響に左右される傾向にあるため、農業普及課では、生育状況を見ながら今後の管理について支援していく予定である。

■大豆

フクユタカ収穫終盤

１１月下旬から管内大豆の収穫が開始され、１２月末時点でごくわずかの面積を残して収穫は終了している。開花期や成熟期の降雨の影響を受け、等級は２等が中心、収量は平年並～やや少の見込みである。今後は、ＪＡビーンセンターで順次乾燥調整作業が進められる。

■いちご

目揃え会の開催

１１月２８日揖斐川いちご生産組合、１２月１２日大野町苺生産組合の目揃会が開催された。市場からは、異物混入や気温が高い場合に発生する過熟果などの留意点について説明が行われた。農業普及課からは、厳寒期に向けて草勢の維持を図るように啓発した。

■柿

袋掛け富有、「果宝柿」の出荷

１２月６日、「袋掛け富有柿」の目揃会がＪＡいび川柿選果場で行われた。生産者は６５人。農業普及課は関係者（振興会役員、全農、ＪＡ等）とともに、大きさ・色・果粉等の選別基準をもとに意識統一を図った。

富有柿の最上位ブランドである「果宝柿」は、大きさ・果色・糖度が一定基準を満たし、外観も優れたのもので、１２月８日から選果を開始。産地及び関係機関（全農、ＪＡ、農業経営課、農産園芸課、農業普及課）により、慎重に選果を行った。今年度は１６２個（前年比１５６％）が箱詰めされ、主に京浜及び名古屋地区高級果実店の他、地元果実専門店に販売された。

農業普及課は、出荷データを元に栽培管理を支援し、岐阜のブランド品目として生産振興を推進する予定である。

次年度に向けてせん定講習会を実施

１２月２３日、大野町かき振興会主催によるせん定講習会が町内６地区において実施された。農業普及課、振興会技術部員及びＪＡ担当者が講師となり、生産者約３５０人を対象に大玉果生産に向けた技術向上を支援した。農業普及課では、特に間伐等の基本技術の徹底について啓発した。

■茶

ＪＧＡＰ内部監査を全契約農家で実施

（農）桂茶生産組合では、ＪＧＡＰ管理点と適合基準に基づき、内部監査資格を持った組合役員による内部監査を実施している。本年度は１２月５～２２日に行われ、契約農家８７軒の農薬や肥料の保管及び取り扱い状況、書類の整理と記録状況の確認・指導を行った。

農業普及課では、事前打ち合わせから加わり、農薬の適正使用等、重点的に確認すべき事項について指導を行った。

担い手の育成・確保

■集落営農組織

集落の営農維持に向けた取り組み支援

１２月２０日、揖斐川町坂内地区で集落営農に向けた研修会を開催し、住民意向調査の結果説明が行われた。

高齢化や後継者不足が心配される中で、集落内の農地維持・保全を懸念する意見や農業の継続を志す意見が出されている。

今後も継続して住民の意見を集約・分析し、地域にあった営農方針が策定できるよう支援する必要がある。

■揖斐地区農業婦人クラブ

農村女性のつどいで花餅作り

１２月１２日、揖斐管内の農業婦人クラブ会員が集い、お正月用の花餅づくりを実施した。

参加した会員たちは、それぞれ気に入った枝や台木を選び、講師のアドバイスに耳を傾けながら製作に取り組んだ。製作の合間には、情報交換や交流も盛んに行われ、賑やかなつどいとなった。

地域の動き等

■梅

耕作放棄地対策　「梅剪定講習会」

池田町梅組合は、大津谷公園駐車場周辺の梅約３０ａ、耕作放棄地再生利用交付金によって再生された梅園９０ａを管理している。１２月１０日に同組合による剪定講習会が行われ支援した。組合員及び町内の一般参加者を対象に、老朽樹の樹形改善、成木の管理を中心に講習・目あわせを行い、圃場で剪定を行った。

池田町では耕作放棄地解消とあわせて果樹生産振興を推進しており、生産者及び団体単位でブルーベリー、栗の剪定講習が開催されている。農業普及課では、地域活性化の一助として取り組む町の農業振興と連携し、支援していく予定である。

中濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２６日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（円空さといも）

円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会発足!!

12 月 16 日に、円空さといも産地振興プロジェクト推進委員会が発足し、第１回推進委員会を開催した。推進委員会は、ＪＡめぐみの、関市、美濃市、農林事務所、関商工会議所、中濃里芋生産組合で構成され、円空さといもの振興を図っていく。農業普及課では、これまでに円空さといも生産振興会議等を通じて、推進委員会発足に向けて支援を行ってきた。

【写真 円空さといも料理を試食】

贈答用さといもの販売開始

円空さといも生産振興会議では、新規栽培者募集や新たな販売方法等について検討を行ってきており、今年から贈答用さといもを販売することとなった。12 月 15 日から注文を受け付け、順次発送することとしている（今年度は、１月 20 日まで注文受付）。

【写真 贈答用さといも】

円空さといも優良種芋の生産について

12 月 14 日に、次年作の種芋さといもの掘り取り、貯蔵を行った。この種芋は、今年一年かけ中濃里芋生産組合の役員らが管理してきた。

農業普及課では、種芋に突然変異株やウイルス被害株が混入しないよう、ダツのある夏から優良株選定について支援してきた。

飛騨美濃特産名人認定

12 月 13 日に、飛騨美濃特産名人認定証授与式が行われ、さといも名人となった間宮勝さん（中濃里芋生産組合長／関市）に、上手副知事より認定証が授与された。

【写真 飛騨美濃特産名人認定】

就農塾

12 月 15 日に､就農塾が開催され、農業普及課からさといもの掘り取り、貯蔵について指導した。ＪＡと連携し、作業上の留意点について説明し、受講生の実習を支援した。

小学生がさといも選果場を見学

12 月 12 日に、農産物の流通・販売について学習するため、瀬尻小３年生がさといも選果場を見学した。

農業普及課からは、選果の流れや出荷規格等について説明し、学習を支援した。子供たちは、選果機からさといもが出てくるところを見て、歓声を上げていた。

【写真 選果場見学の様子】

主要農作物の生産振興

■大豆

収穫は終盤

大豆は、青立ちが見られるほ場があり、収穫作業が遅れていた。このところの低温と降霜で茎も枯れ上り、収穫が急ピッチで進んでいる。

農業普及課では、青立ちの原因を究明するため、栽培管理状況を調査しており、今後その内容を整理して、次作に生かしていく。

【写真 大豆の収穫作業】

■小麦

現地適応性の確認

農業普及課では、将来の実需者ニーズに対応するため、小麦の２品種(さとのそら、きぬあかり)の現地適応性を確認する現地試験を行っている。現在の所、出芽数は、対照品種の

農林61号に比べて多く、生育は順調である。
　また、管内の農林 61 号のほ場は、排水対策も確実に実施されており、生育状況も良好である。

【写真　排水対策も万全】

■水稲採種

優良種子の安定生産に向けて

　12月２日から９日にかけて、美濃市採種組合員を対象に、種子栽培研修会を実施した。農業普及課では、本年度、特に問題となった籾枯細菌病について、発生要因とその対策について指導を行った。出穂前必要な防除を次年度のラジヘリ防除に組み込めるよう調整している。種籾の精選作業は現在実施中であるが、早生・中生品種は、種子合格率が前年を大きく上回る良い結果となった。その一方で、晩生品種のハツシモは充実不足で、合格率の低下が見込まれ、その原因について検討し、次年度の栽培に向けて支援していく。

【写真　種子栽培研修会】

■いちご

いちご目揃え会

　今年のいちごの出荷開始にあたり、12 月５日に出荷規格について、生産者の目揃えが行われた。農業普及課からは、栽培管理について説明するとともに、ＧＡＰの取り組みを意識したチェックリスト「いちごの事故品を出さないために」を作成・配布し、残留農薬や異物混入の防止について、徹底を図った。

■夏秋なす

次年産なすの生産性向上に向けて

　本年産のなすは、定植後６月中旬までの低温、２回の台風被害など不安定な気象の影響で全県的に生産量が減少するなか、中濃夏秋茄子生産出荷組合の単収は、前年並みの７t/10aを確保することができた。農業普及課では、新規栽培者を重点的に巡回し、適切な施肥管理や病害虫防除の実施を支援し、11月下旬まで生産を続けた生産者も見られた。
　今後は、土壌診断研修会を開催し、生産者ごとに施肥設計を提示することにより、次年産の適切な肥培管理について支援することとしている。

担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー

地域農産物を使った加工研修会の開催

　12月６日に、女性農業経営アドバイザーが講師となり、さといも、ゆず、飛騨牛などを使った加工品づくりを行った。また、今回は、若い女性農業者との交流も併せて行うこととし、一緒にこんにゃくやゆず味噌加工を行い、親睦を深めた。
　農業普及課では、新たな女性農業経営アドバイザーの育成も視野に入れ、このような活動を今後も支援していく予定である。

【写真　若い農業者との交流】

地域の動き等

■かみのほ特産品加工組合

関市内豆腐業者との協働で豆腐づくりを

　かみのほ特産品加工組合では、農業普及課からの働きかけにより、関市内の豆腐業者との協働により、ゆず豆腐を商品化することになった。
　加工組合では、ゆずの表皮をペースト状にして納品することとなり、これまでの試作段階においては、加工方法や原価計算等を指導してきたが、今後は衛生管理面や加工設備等の充実に向けた支援を行っていく。

【写真　ゆずペーストの加工】

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

■トマト

実績検討会

12月16日(金)に夏秋トマト部会の実績検討会が実施された。本年は出荷量で前年比約１３０％に増加し、販売金額１億５千万円を達成した。

来年の更なる飛躍を図るため、特に成績が優秀であった生産者の表彰や、本年から本格的に取り組みを開始したＧＡＰの自己点検の集計結果の報告・検討を行った。

【写真　トマト実績検討会】

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

ミックスジュース

（株）ひるがのドリーム・（有）ひるがのラファノスが、12月15日に郡上市高鷲振興事務所で高山市内の寺田農園とともにりんごとにんじんのミックスジュースの製造販売について検討を行った。

りんごとにんじんを利用したミックスジュースの製造販売に関する打合せが中心となったが、全日本空輸の機内カタログに採用に向けた商談も控えている。

【写真　ミックスジュース打合せ】

農業普及課では、６次産業化の取組について、会合での調整役やアドバイザーとして支援していく予定である。

■活力ある新産地づくり支援事業（夏秋いちご）

１億円めざして産地拡大

12月13日､ひるがの高原いちご組合の販売実績検討会が開催された。

平成 16 年に組合設立以来、栽培面積(1.8ha)、販売量(40t)、販売金額(7,300 万円)ともに最高の実績となった。昨年度から本格導入した品種「すずあかね」を作りこなすためには、栽培技術面での課題が残されているが、来年度には新規組合員も加わり、将来的には１億円産地をめざしたいとの意気込みが語られた。

【写真　いちご販売実績検討会】

■ほうれんそう

奥美濃ほうれん草出荷組合実績検討会

平成23年12月10日にほうれん草出荷組合の実績検討会を開催した。本年は春の残雪による生産開始遅れ、日照不足、土壌病害の多発等により出荷量が伸びない年であった。

農業普及課では、平成22、23年の反省と現地試験結果から問題点を整理し、７月以降の出荷増に向けて①発芽の安定と収穫前の株重確保、②効果的な土壌消毒時期、③品種の選択の３点を重点的に改善するといった提案を行った。

今後は、さらに、年明けに２回目の実績検討会を開催し、来年度の改善内容の再確認と、病害虫防除等について検討する。

■山菜

タラの芽ふかし栽培がスタート

奥美濃たらの芽出荷組合の一部の組合員により、タラの芽のふかし栽培が始まった。厳寒期は伏せ込みから収穫まで４０日程度の期間を要するため、１月中旬頃が初収穫となる。

平成 23 年から新規にタラの芽栽培を開始した㈲エヌシーアイ、和良幸作民メンバーは、今年の生育（茎長、芽数）が不十分であったため、ふかし栽培は来年度に持ち越すこととした。

【写真　タラの芽ふかし栽培】

■だいこん

ひるがの高原だいこん生産出荷組合総会

ひるがの高原だいこん生産出荷組合が１２月９日に高鷲町民センターで総会を行った。

出荷量５，４００トン、売上５３８百万円で１戸あたりの売上は約１，８００万円となり、１戸あたりの売上では過去最高となったことが報告された。

今後は、冬季に各種研修を行い市場評価を高め、産地ブランド化の強化に向け取り組んでいく予定である。

【写真　だいこん組合総会】

担い手の育成・確保

■農業簿記

農業経営研修会

１２月８日に農業簿記に関する農業経営研修会をＪＡめぐみの高鷲支店で行った。

農業経営課岐阜駐在の技術支援担当を講師に招き、農業簿記に関する基礎事項について研修を行った。

【写真　農業経営研修会】

■おくみの高原七郷会

郡上高校生と食事伝承交流

おくみの高原七郷会の恒例行事となっている郡上高校との食事伝承交流会が12月1日に開催された。今年は、高校からは「郡上高校鶏ちゃんまん」、七郷会からは「おはぎ」「けんちん汁」「炒めなます」をお互いに紹介し、調理実習と意見交換を行った。

世代を超えた交流会は、お互いにいい刺激となり、今後の活動の励みになったとの意見も聞かれた。

【写真　実食しながらの意見交換】

地域の動き等

■郡上市

市農業振興大会で普及活動成果発表

１２月１８日に郡上市農業振興大会が美並町の日本まん真ん中センターで行われた。約４００名の農業関係者が参集し、農業関係者の発表や鳥獣害対策の講演会が行われた。

本大会において農業普及課から、普及活動成果報告として夏秋トマト生産部会に対する活動の取り組みについて発表した。

【写真　普及活動成果発表】

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

平成 23 年度産いちごの品質向上対策

１１月２５日から「濃姫」の出荷が開始された。昨年より１週間早いものの、平年より１週間遅れとなった。「濃姫」の出荷ピークは１２月中旬となり、「紅ほっぺ」は年末から１月上旬にかけてピークの見込みとなっている。出荷開始時は、高温傾向であったことから、過熟果や腐敗果のクレームがあったため、農業普及課では、１２月１日に開催された出荷目揃会及び現地研修会では、適期収穫と選果・選別の徹底を呼びかけた。

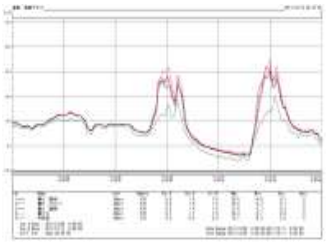
【写真　現地研修会の様子】

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

青ねぎのトンネル被覆試験

坂祝町青ねぎ生産部会では、冬期の青ねぎの生育促進を目的としてトンネル栽培をおこなっている。農業普及課では「活力ある新産地づくり支援事業」により効果の高い被覆資材を検討するため比較試験を実施している。４種類の被覆資材を用いて、１１月下旬から被覆を開始しており、トンネル内の温度変化を調査・比較することで、今後の技術指導に活かしていく予定である。



【図　トンネル内温度】

■大豆

収穫進む

管内では、約８７ha の栽培が行われており、中山間地域の白川町や東白川村では収穫が終了した。一方、平坦部では、収穫が進められており、１２月中旬で５割程度となっている。本年度は、平坦地域で栽培する「フクユタカ」においても、青立ち症状が一部で見受けられたため、農業普及課では、中山間地域同様に、収穫時の成熟を揃えるための対策の提案、指導等を行った。

■トマト

美濃白川トマト部会の反省会でさらなる収量増を目指す！

美濃白川夏秋トマト部会は１２月１２日に反省会を開催し、技術改善試験の結果について検討を行った。本年の単収は過去最高に近い 8.62ｔ/10a となったが、来年度はさらに９ｔ/10a を目指して技術改善を図ることとした。

■柿

堂上蜂屋柿出荷開始

堂上蜂屋柿の加工作業が終盤を迎え､出荷も開始されている。本年度は、果実が大果となったことに加え、加工時期に悪天候の日が多くなったことから、乾燥が進まない状況である。そのため、加工進度が遅れており、年内出荷量は例年より少ない。一方、品質は、生産者の努力により、例年並みを維持できている。

【青空の下、加工が進む堂上蜂屋柿】

■じねんじょ

可茂自然薯生産協議会が目揃会開催

可茂自然薯生産協議会（可茂管内の自然薯生産者で構成される広域の組織で、ＪＡめぐみのが事務局）が１２月１５日に目揃会を開催した。今年は、病害が少なく豊作傾向である。栽培講習会では、生産者から多くの質問が出され、活発に議論が行われた。出荷されたものは、ＪＡの定温貯蔵庫で保管後、注文に応じ翌年の秋まで域内の料理店などに出荷される。

【　目揃会の様子】

担い手の育成・確保

■新規就農者

新規就農者いちご出荷開始

平成２３年度の全農いちご研修所の卒業生が、地元の美濃加茂市でいちご経営を開始している。１１月下旬には収穫が始まり、ＪＡめぐみのいちご部会を経由して、地元市場に出荷している。農業普及課では、今後とも重点的に指導する。

【写真　きれいに手入れされたいちご】

■ＪＡ出資法人

「はちみつ大豆」を学校給食に提供

（有）土利夢ファーム可児の役員会が開催され、大豆収穫をはじめ各種作業状況や販売状況などについて報告及び検討が行われた。「可児っ子大豆カリッコ」の新たな販路開拓として、はちみつ味を小袋包装し、可児地域の小中学校で１月に実施される「ふれあい給食」に提供する。好評が得られれば今後の継続利用の可能性も高まる。

【写真　認定証交付式】

■飛騨美濃特産名人

白川町の新田氏が飛騨美濃特産名人に認定される

白川町の新田正巳氏が「飛騨美濃特産名人」に認定された。氏は、長年にわたり白川町の品評会出品茶の加工に携わっており、品評会で上位入賞できる荒茶の製造加工に取り組んでおられる。

地域の動き等

■美濃加茂地域（全域）

みのかも地域水田農業推進協議会担当者会議

１２月２０日に開催されたみのかも「地域水田農業推進協議会」担当者会議において、平成２４年４月から活動開始予定の「地域再生協議会」への再編等に関して検討が行われた。「地域再生協議会」は、各市町村に設立する方針が確認され、農業普及課では農業振興課とともに、今後ともオブザーバーとして必要に応じて助言・指導等を継続する。
なお、可児地域（２市町）においても、みのかも地域と同様に各市町に「地域再生協議会」が設立される。

■白川町

「環境保全型農業直接支払交付金」に関する実施状況事前確認

白川町内の１５名の有機農業者（品目：水稲、野菜類、ブルーベリー等）が「環境保全型農業直接支援対策」を申請している。町への実施状況報告書の提出に向けて、農業普及課では１２月１５日に各農業者に対し関係書類の事前確認を行い、円滑な手続きに向けた支援を行った。当日は、町農林商工課等の協力を得て、「くわ山結びの家」（佐見地区８名）及び役場会議室（黒川・蘇原地区７名）において、生産履歴をはじめ必要な書類の内容を確認した。１月にも引き続き２回目の確認と支援を予定している。

■坂祝町

鳥獣被害対策先進地視察

坂祝町園芸振興会が１２月７日に滋賀県農業技術振興センターの視察研修を行った。坂祝町では近年、鳥獣被害が問題化しており、隣県の取り組みを学び、その対策を検討するため、農業普及課が視察先を選定した。

そば収穫・感謝祭

「そば打ち迷人会」が、１２月１３日に町内で栽培したそばの収穫・感謝祭を開催した。農業普及課では、同会の栽培管理を支援している。当日は、地域住民や関係機関の約９０名が招待され、そばが振る舞われた。さらに、来年は「そば打ち迷人会」が東北地方へ出向き、打ちたてそばを被災者に提供する支援活動も計画されている。

東濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月３１日現在

今月の重点活動

（経営者協会が新規就農者を交えた研修会実施）

土岐地区農業経営者協会（会員20名）では、農業に参入する若者や定年帰農者に対し、農業経営者としての仲間づくりやいち早い農業経営の確立を応援するため、研修会や交流会を実施している。

12月２日には、８月の試験場等の視察に引き続き、名古屋市中央卸売市場北部市場視察を企画実施した。

管内では、経営者協会の会員を始め、数名が、北部市場の仲買人を通じて管内量販店の地場野菜コーナーに野菜出荷を行っている。一方、新規就農者も量販店や地元スーパーへの出荷を主体に営農計画を検討しているが市場視察の機会はこれまでなかった。

視察後には、新規就農予定者や法人で新たに雇用された若者等農業経営者との交流を図った。

当管内は、生産部会が無いため、「直売」をキーワードとして流通面の課題に取り組むなど、農業経営の課題を解決できるよう、引き続き活動支援を行ってゆく。

【写真　市場の説明を聞く会員等】

【写真　交流会の様子】

農作物の生産振興

■ブロッコリー

（出荷終盤）

ブロッコリーは、12月上旬に出荷ピークを迎え、終盤を迎えている。今年度産については、野菜づくり塾等で新規栽培者 30 名程度を確保することができ、初回としては大変良質なブロッコリーの生産販売につなげることに成功した。来年度以降は、長期・安定出荷に向け、品種や作型をさらに検討していくこととしている。

【写真　収穫待ちのﾌﾞﾛｯｺﾘｰ】

■いちご

（クリスマス需要で大忙し♪）

管内のイチゴ農家では、出荷ピークとクリスマス需要が重なり、大変慌ただしい日々となっている。スポット的にダニが発生するなど防除と収穫に追われているが、農業普及課では、長期間しっかり収穫できるよう、日々の適切な管理について支援してゆく。

担い手の育成・確保

■土岐市鶴里町

（鶴里地区集落営農設立準備会）

鶴里地区集落営農設立準備会は、組織化支援チームや集落営サポーターを交え、12月15日に今年度３回目の会合を開催した。準備会では、これまでの経過を踏まえた今後の活動の方向について、１～３月及び平成24年度の活動計画並びに中長期的な活動方

【写真　集落営農設立準備会】

針について検討を行った。更に、メンバーからの率直な意見を集約するため、各自意見を書いて会長に提出することや、次回から集落営農のあり方について集中的に議論することを決定した。

■全域

（新規就農希望者が、農業委員会でのプレゼンテーション）

12月22日に土岐市曽木町への就農予定者が、土岐市農業委員会で就農の志や営農計画についてのプレゼンテーションを行った。

優良な農地が有効に活用されていない現状を最も認識する農業委員からは、地域の担い手となりうる人材の登場に期待を込めて、「やってみせて、信頼を得てほしい」との助言や、農業経営の確立にエールが送られた。

【写真 ﾌﾟﾚｾﾞﾝする就農予定者】

（新規就農者支援・・ＪＡトップとの面談）

平成24年の経営開始を目指して、営農計画策定中の２名の新規就農希望者と陶都信用農業協同組合長及び土岐地区農業経営者協会長との面談が12月20日に行われた。

当管内では、新規就農事例が少ないことから、農業普及課が、農地確保や資金等の課題を解決しつつ就農に向け取り組んでいる状況について情報提供してきたところ、組合長から面談依頼があったため実現した。

新規就農予定者からは、資金活用や販路、資材調達等について農協、市、県担当者に相談しながら経営計画を策定するとともに経営開始をめざしている旨の自己紹介が行われた。

また、農業普及課からは、就農連携会議や個別就農相談等、就農をサポートするしくみづくりを行っていること等について説明した。

地域の動き等

■瑞浪市

（野菜づくり塾閉講　来年度の生産に期待）

12月６日に、野菜づくり塾の閉講式が行われ、受講生29名に修了証が授与された。今年度は、４月～７月にトマト、７月～11月にブロッコリーについて受講され、来年オープンする農産物直売所への出荷が期待される。

また、同日春野菜研修会が開催され、瑞浪市農産物等出荷者協議会員 72 名が参加した。農産物直売所のオープン時に出荷できる野菜を中心に研修が行われた。

【写真 修了証授与の様子】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

ぽろたん栗のスイーツ初販売！～地元菓子業界と新たな農商工連携を模索～

管内ぽろたん栽培農家及び関係機関で構成する「東美濃ぽろたん研究会(事務局：農業普及課)」は、地元中津川・恵那の両菓子組合へ新品種「ぽろたん」の加工検討を依頼した。

中津川菓子組合からは、ぽろたんたっぷりのタルトなどを創作いただいた。一方、恵那菓子組合からは、12月4日開催の恵那まちなか市に合わせ、お披露目スイーツとしてぽろたん丸ごと１個を使った赤飯饅頭やマドレーヌを販売して頂いた。協力店舗からは、「渋皮を剥く手間がかからないことはすごく魅力的」、「オンリーワン商品として活かせる」など太鼓判を押す声が聞かれた。

【写真　タルト(左)と恵那まちなか市で販売された赤飯饅頭・マドレーヌ(左下)】

当産地のぽろたんは、当面、出荷量が毎年倍増していく見込みで(来年秋500kg、再来年秋1t)、研究会では加工業務用向け原料販売も視野に新たな用途・販路を模索中である。

主要農作物の生産振興

■大豆　**大豆収穫作業オペレーター研修を開催**

農業普及課は12月6日にＪＡ、東美濃大豆生産協議会及び農機メーカーと連携して、恵那市三郷町でオペレーターを対象とした収穫作業研修会を開催した。

今回は、収穫のピークを迎える中での実施となったが、刈り取り位置や作業スピードの調整、メンテナンス方法等、資料に加えて実際の作業を見ながらの研修となり、関係者からは今後の作業の参考になったと好評であった。

【写真　収穫作業のポイントを現場で確認】

■飼料用稲

栽培実績＆新技術実証、来年度に向けた取組み等に関する検討会を開催

【鉄コーティング直播】

管内３営農組合が、本年度から飼料用稲の鉄コーティング直播栽培に初めて取り組んだ。そこで、12月８日に本年度の栽培実績及び次年度の方向性に関する検討会を開催した。農業普及課からは各組合の実証結果を説明し、本年度問題となった出芽率、雑草対策について検討を行った。

来年度も３営農組合では、飼料用稲で取り組みを引き続き行う予定であるとともに、１営農組合においては主食用米についても実証を行う計画をしているため、農業普及課では、関係機関と連携して技術支援を行うことを確認した。

【恵那市飯地営農組合】

農業普及課は12月14日、恵那市飯地営農組合を対象として、今年の飼料用稲実績検討会を開催した。中山間農業研究所中津川支所の担当者と連携して、３品種の展示や乳苗移植の実証試験結果などを説明した。営農組合からは栽培実績が報告されるとともに、飯地地区の気象や水田条件に合う品種及び栽培方法に対する意見や要望が出され、農業普及課からの提案を基に検討を行った。

その結果、品種の切り替えや栽培体系・技術についての方針を決定し、関係機関との連携のもとで準備を進めていくこととなった。

【写真　営農組合の意思決定を支援（飯地営農組合）】

■水稲「きねふりもち」

オンリーワン品種として、地域の特産品を目指したい～きねふりもち検討会～

きねふりもちについては、中農研中津川支所で育種された高品質のもちを地元住民に食

べて頂きたいとの思いから取組みが始まり、本年度は４営農組合で栽培が行われた。

12月16日に営農組合や関係者により検討会が行われ、農業普及課は、中津川支所と連携して本年度実施した実証ほの結果について説明した後、栽培上の問題点や次年度の方向性について検討を行った。出席者からは栽培上の課題はあるが、地域の特産品として育てていきたいとの声があり、次年度も４営農組合で引続き栽培を行うこととなったため、高品質米生産に向けて関係機関で支援を行っていく。

【写真 モチだけに粘り強い検討会】

■なす

来年に向けた活動方向を固める～東美濃夏秋なす生産協議会生産販売会議～

本年の夏秋なすの出荷も１１月中旬をもって終了し、１２月１３日には東美濃夏秋なす生産協議会主催により、東美濃夏秋なす生産販売会議が開催された。

会議ではＪＡや市場関係者からの情報提供とともに、農業普及課は、本年の課題及び生産者アンケートからみた次年度の対策についての研修会を実施した。単価の期待できる早期出荷に向けては被覆資材による保温及びホルモン処理を実施する。一方、後半の収量確保に向けては適正な施肥管理の実施と８月末までの整枝剪定作業の励行に取り組むこととした。

また、土壌病害が収量減少に大きく影響している実態も明らかとなっているため、ほ場移転などと合わせ、中山間農研中津川支所で検討されている独立袋栽培の技術確立に向けて、協議会組織としても継続して取り組むこととした。

■じねんじょ

特産のじねんじょ出荷はじまる

恵那自然薯生産組合（組合員12名）では、12月2日～13日に特産のじねんじょの共同出荷を行った。今年は相次ぐ長雨により枯れ上がりが早いなど影響が心配されたが、昨年並の700ケース程がＪＡへ出荷され、１箱2000～3000円で主に贈答用に販売された。

【写真 じねんじょ出荷目揃い】

■こんにゃく

特産の蒟蒻出荷はじまる

恵南蒟蒻生産組合（組合員 11 名）では、11 月 8 日～12 月 15 日にこんにゃくの共同出荷を行った。今年の生育は順調であったが、９月の台風による倒伏のため芋の肥大が悪い圃場もみられた。昨年をわずかに下回る 20t 程がＪＡへ出荷された。極上玉で 400～500 円/kg の契約販売が主体であるが一部小売販売も実施した。

【写真 出荷される蒟蒻】

■恵那花き研究会（シクラメン）

「シクラメン消費者モニター募集」～恵那花き研究会～

地域のシクラメン生産者で組織する「恵那花き研究会シクラメン勉強会」では、消費者のニーズや購入したシクラメンの鑑賞期間、観賞場所などを確認し今後の生産に活かそうと、昨年に続き消費者モニターを募集した。

昨年のモニターに参加頂いた方を主体に、品種の違う 13 種類の中から好みのシクラメンを安価（５号鉢、800～1,000 円）で買っていただき２ヶ月後の開花状況などを回答して頂くことを条件に募集した。恵那総合庁舎と県庁の職員約 100 名に参加して頂き、12 月 27 日に 150 鉢のシクラメンが配布された。

研究会は、こうした調査を続けることで品質の向上につなげていきたいと考えており、農業普及課は、今後もモニター結果の取りまとめや情報の提供などを行うこととしている。

【写真 モニター参加者に配布する生産者代表の伊藤さん】

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業「龍の瞳」

支部生産組合会議開催される

【写真　下呂・加子母支部研修会他（下呂市宮地）】

龍の瞳生産組合は県内に 18 支部あり、各生産組合で精力的に活動が行われている。その中で、12 月 12 日には下呂・加子母支部で総会及び研修会が開催された。

23 年産は、農業普及課によるこれまでの分析結果から、千粒重は例年より大きく、ここ数年問題となっている胴割粒も昨年に比べ少ない傾向にあった。

しかし、品質に関する課題は多く、各課題ごとに原因と対策について説明を行った。

課題の１つである胴割粒対策として、本年下呂市の３地区でモデルほ場を設置し、収穫時期別の等級の変化等を調査した結果について説明を行った。

その他（資）龍の瞳からは、24 年産の栽培委託契約書について説明があった。龍の瞳の生産者からは、全国での販売推進に向たＰＲ方法について意見、要望があった。

農業普及課としては、品質低下の要因を分析し、高品質安定生産技術の見直し等を行っていく。

主要農作物の生産振興

■飼料用米

第３回耕畜連携担当者会議開催

【下呂・加子母支部研修会他（下呂市宮地）】

下呂地域で飼料用稲を推進するため、12 月 1 日に管内の関係機関による担当者会議が開催された。

本年は、作付面積約 22ha、生産者数 52 名で取り組み、出荷量は約 101ｔと概ね目標量を達成できた。出荷量のうち半分は地域内に流通しており、この飼料用米を使った畜産農家の反応も良好であった。

しかし、本格的に取り組んで１年目で地域内流通量が少ない中、今後は、流通量の増加に対する課題などがあり、次年度に向けた推進方策等について協議を行った。

下呂域内流通分を増やすためには、保管場所の確保及び新規利用者の掘り起こしが必要となる。このため、当面は新規利用者の掘り起こしを重点的に活動していくことになった。

また、一部の生産者は単収が低いため、安定生産技術の周知を図りながら、単収の向上を目指すこととした。

農業普及課としては、需要量に合わせた安定供給を行うため、栽培暦に基づく安定生産技術の周知、低単収者に対する指導を行っていく。

■夏秋トマト

益田夏秋トマト生産組合個人面談始まる

【写真　個人面談の様子（下呂市萩原町　ＪＡひだ益田営農ｾﾝﾀｰ）】

益田夏秋トマト生産組合では、12 月 19 日から１月５日まで、各生産者に対して、農業普及課の担当者、ＪＡ出荷担当者および営農指導員を交えて個人面談が行われた。

この面談は、生産者が、自分の今年のトマト栽培の技

術面および経営面での課題を気づかせ、それを踏まえた次年度の栽培計画の樹立に結びつけている。

今年は、早く梅雨明けし７月の高温の時期に多くのほ場で青枯れ病が発生した。そのため、青枯れ病の発生を抑えるための土壌消毒の徹底、青枯れ病に強い台木の検討を行った。また、より作りやすい品種として試験栽培している「サカタ SC4-412」の来年度の作付計画などについても話し合った。

なお、下呂夏秋トマト生産組合の個人面談は、１月 16 日から１月 18 日に開催予定である。

担い手の育成・確保

■新規就農者

就農支援資金でハウス建設開始

認定就農者に認定された新規就農者によるハウスの建設が 12 月 17 日より始まった。

関係者の協力を得ながら､順次ハウスを建設し２月には、ほうれんそう栽培を開始する予定である。

自らハウスを建設し、自分で農業を新たに始めるという手ごたえを感じていた。

このハウスは、市、ＪＡ、下呂農林事務所農業振興課と連携しながら認定就農者に対する資金の貸付制度や国からの支援事業を活用して導入された。

農業普及課としても、農業の円滑なスタートがきれるよう引き続き支援していく。

【写真 ハウスを建てる新規就農者（写真中央）（下呂市門和佐）】

新規就農者の認定に向けて

12 月 11 日に、今年度管内で２人目の認定就農者の認定にむけて、農業普及課、市、就農希望者及びその父の４人が希望者の自宅に集まり、打ち合わせを行った。

本人は、来年４月から父と同じ鉢花生産を一人の経営者として開始したい意向である。

そこで、認定就農者の認定に必要な書類作成や今後のスケジュールの検討などを行った。

農業普及課としては､１月下旬の就農認定を目指し､市、ＪＡ、下呂農林事務所農業振興課と連携しながら、資金の貸付、国補事業も活用できるよう支援していく。

【写真 認定就農に関する打合わせ（下呂市萩原町）】

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１２月２８日

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

今年度出荷量は昨年の約 1.5 倍！

12 月 16 日、ＪＡひだ丹生川支店で宿儺かぼちゃ研究会主催による役員会が開催された。

今年の宿儺かぼちゃの出荷量は天候にも恵まれ 156ｔ（前年比 148%）となった。農業普及課からは安定生産の基本となる病害虫防除の徹底について説明した。また、イオンリテール㈱が推進するフードアルチザン（食の匠）プロジェクトに対し、今後どのように取り組むかについても協議された。

【写真　宿儺ｶﾎﾞﾁｬ役員会(丹生川町)】

■活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

新規栽培者説明会開催！

12 月 7 日、ＪＡひだの飛騨地域営農管理センターで菊部会主催による新規栽培者説明会が開催された。市村の広報やＪＡの広報で広く呼びかけたが、参加者は６名と例年に比べやや少なかった。しかし、毎年、除々に生産者が増えており、目標出荷１００万本に一歩一歩近づいている。

主要農作物の生産振興

■飛騨トマト

全体研修会開催！

12 月 1 日、ＪＡひだ本店で飛騨蔬菜出荷組合トマト部会主催による「飛騨トマト全体研修会」が開催され、約 200 名のトマト生産者等が出席した。

今年は「単収１ｔ増加」をスローガンとして取り組んだ結果、昨年比＋0.9ｔ(6.8→7.7ｔ、11 月 10 日現在)で、ほぼ目標達成することできた。しかし、出荷が前半に偏り、後半(10 月)の出荷量が激減したことが課題となった。

【写真　全体研修会（高山市）】

そこで、農業普及課からは「後半までしっかり穫れる飛騨トマトを目指して」と題し、土壌水分確保(通路潅水・潅水優良事例)、摘果励行、裂果抑制、土壌還元・消毒の推進などについて報告し、後半の高単価が期待できる時期にも安定して出荷できる対策を促した。また、新品種(タキイ No15、サカタ 412)について、現場の生育データやアンケート結果に基づいた栽培特性の説明も行った。

研修会では、各単組で生産者自身が取り組んでいる「ローカルプロジェクト」の発表や福島県のトマト名人である宇川氏の講演もあり、後半の値段が高い時に、いかに出すかについての具体的な話に、生産者は熱心に聞き入っていた。

■飛騨ほうれんそう

全体研修会を開催！

12 月 6 日、ＪＡひだ本店で飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会主催による全体研修会が開催され、約 250 名の生産者等が出席した。

今年は、気象変動が激しい年であったことから、猛暑の昨年と比べて出荷量（前年対比 105%）はやや回復したが、9 月の収量が十分に確保できなかった。その現状を踏まえ研修会では、安定したほうれんそうを供給のできる産地を目指して、遮光資材の効果的な使用方法、チューブ潅水による安定生産について農業普及課から説明を行った。さらにプロジェクトチーム活動である品種体系・事故品対策・防除対策、出荷予測等の多岐にわたる課題について生産者の各担当役員から報告があり、出席者は真剣な表情で聞き入っていた。

【写真　全体研修会（高山市）】

■果樹

第 14 回りんご「ふじ」品評会を開催！

12 月 2 日、ＪＡひだ本店でＪＡひだ果実出荷組合協議会主催によるりんご「ふじ」品評会が開催された。この品評会は生産者の技術向上、産地のＰＲを目的に、毎年開催されているもので、本年は昨年の猛暑の影響による花芽不足により収量が減るなかではあったが、生産者の努力により昨年を上回る 47 点の素晴らしいリンゴの出品があった。

金賞１席（県知事賞）には、久々野町の中野雅夫氏が受賞された。

【写真　入賞者の皆さん】

担い手の育成・確保

■飛騨市

飛騨市農業委員会の女性活動を報告！

12 月 14 日、岐阜市の県シンクタンク庁舎で、県農業経営課主催による「平成 23 年度農山村パートナーシップいきいきフォーラム」が開催され、飛騨市農業委員会の事例を中野多千子氏が発表した。

ぎふ農山村男女共同参画プランで掲げる農業委員会の女性の割合は 5%を目標としているが、飛騨市では合併以降 20%を維持している。

飛騨市では女性の参画に対して地域の応援があったことが大きいこと、また女性農業委員６名で保育園児を対象としたキッズキッチン事業に参加して、食育活動の成果と達成感が得られたことなどについて発表された。

【写真　発表の様子（岐阜市）】

地域の動き等

■飛騨市古川町

夏秋なす部会、豆部会反省会の開催！

12 月 16 日、ＪＡひだ吉城営農センターで吉城蔬菜出荷組合主催による「夏秋なす部会、豆部会反省会」が開催された。

今年の夏秋なすの出荷量は 64.5ｔ（前年比 113%）、グリーンピースは 8.6ｔ（前年比 74%）、モロッコインゲン 5.8ｔ（前年比 100%）、あきしまささげ 1.4ｔ（前年比 72%）であった。新しい取り組みとして、中山間農業研究所からは夏秋なす袋栽培の実証結果について説明があった。また、農業普及課からは両部会の今年の反省と来年に向けた栽培管理を説明した。

【写真　なす、豆反省会（古川町）】

■大野郡白川村

大麦の生育を調査！

12 月 14 日、白川村木谷地区で、平成 24 年産大麦の生育調査を実施した。

今年は気温が低く推移したが、10 月中旬から播種が始まり、排水対策の徹底を生産者へ指導助言したことにより、生え揃えも良く、草丈 15cm と順調な生育であった。

今後は、来春の雪解け以降の栽培管理について、引き続き生産者への指導助言を行う。

【写真　大麦の生育状況（白川村）】

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成 23 年 12 月 28 日現在

１　専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（１）効率的･効果的な普及活動の支援

◆病害虫対策はカキ園の総合管理から

岐阜市かき共販振興会員約 230 名を対象に、担当普及指導員と共同でカキ栽培に関する研修を行った。今年多発した「炭そ病」「落葉病」の病原はカビであり、屋内の管理と同じように、間伐とせん定で園内の風通しと日当たりを良くすることが病害抑制に欠かせないことを力説し、次作に向けた冬期の適切な作業管理の指導支援を行った。

（病害虫担当：鈴木俊郎）

（２）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証･普及

◆トマトポット耕栽培検討会を開催

１２月１６日（金）に関係する普及指導員を集め、農産園芸課並びに農業技術センターを招き、標記の栽培検討会を開催した。まず、海津市の導入農家にて優良事例を視察し、これまでの栽培経過や管理のポイント等について検討した。

また、南濃試験地にて、各産地の栽培状況や今後の導入予定等について情報交換を行い、農業技術センターから管理指導の要点について説明を受けた。

（野菜担当：加藤 高伸）

◆夏秋ナス栽培検討会議を開催

１２月２０日（火)、関係する普及指導員を集め、中濃総合庁舎にて標記検討会を開催した。

今回のテーマは、現在、中山間農業研究所中津川支所にて研究開発が進む「夏秋果菜類の土壌病害を回避する超低コスト栽培システム」についてで、研究の成果や進捗状況、２３年度に実施された現地実証試験の結果等の情報の整理と共有を図るとともに、次年度の現地実証試験を含む今後の普及方法等について、関係者で協議した。

（野菜担当:加藤 高伸）

（３）普及指導員等の資質向上

◆普及指導員の高度専門技術研修を実施

ぎふ農業・農村基本計画において重点品目とされた「エダマメ」について、より高度で専門的な栽培技術指導ができる普及指導員を養成するため、今年度より高度専門技術研修を実施している。

１２月１５日には、栽培の推進による面積拡大、長期に渡る安定的な生産出荷体系の普及、最近問題化しつつある病虫害対策等について、農業技術センターやＪＡ全農岐阜担当者も招き、次年度の活動課題策定も踏まえて研修を行った。

（野菜担当：加藤 高伸）

（４）県下の技術の統一

◆フランネルフラワー生産指導検討会を開催

１２月２日、フランネルフラワー生産指導上の技術統一を図るため、関係農業普及課の花き担当者及び農業技術センター、中山間農業研究所、農産園芸課の担当者による検討会を開催した。今回は現地検討として本巣市内の鉢物生産温室において、底面給水栽培での過湿による根傷み対策について検討した。

また、室内検討では、各地域の現状と課題への対応策、調査研究課題として取り組んできた現地実証成果の県下各地域での活用について検討した。

（花き担当：井戸誠二）

栽培温室での現地検討

（５）行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆岐阜県麦民間流通地方連絡協議会で、今後の岐阜県産麦の振興方針を検討

１２月１４日に岐阜県麦民間流通地方連絡協議会が開催され、県からは２４年産麦の播種や初期生育の状況、今後の岐阜県産麦の振興方針案について情報提供を行った。今年産麦は、これまで温暖な条件から順調な生育で経過していることをまた新品種への対応については、２４年産の結果に基づき大規模実証への発展も視野に入れていることを実需者に伝えた。実需、生産流通団体、行政の連携を一層密にするこの会議内容を現場農家に伝え遂行してゆくかが産地の信頼につながる。

（土地利用型作物担当：吉田一昭）

◆「果宝柿」の出荷量拡大の普及活動を支援

富有柿では、大きく品質が良いものを選んで８月から９月に果実に袋掛けしたものが、１２月中旬に「袋掛け富有柿」が出荷される。中でも果重３５０ｇ以上、糖度１８度以上など一定の基準を満たしたものは最高級品の「果宝柿」となる。今年は、本巣市と大野町にて１２月８日から１６日までその選別出荷を支援した。

今年から果宝柿の出荷量増加を目標に掲げ、現地の普及指導員が生産者へ働きかけた結果、「袋がけ富有柿」の数は前年とほぼ同数であったが、「果宝柿」の出荷は３０５個と前年の１９６個を大きく上回った。今年は秋が温暖で、果実肥大が順調で、糖度も高くなったことも増加につながった。本巣市では糖度センサー付きの選果機を導入して、高品質な果実生産に関心が高なっている。今後もデータを蓄積して、さらなる「果宝柿」の出荷量拡大に向けた普及活動を支援していく。

（果樹担当：石川嘉奈子）